

1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山県立岡山東支援学校	実践者名	中村 夏
実践場面 (教科、領域、行事等)	自立活動、休憩時間		
単元・題材名	支援機器の操作		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPadなどの支援機器の操作に慣れる。 ・ 余暇活動を充実させて、安定した気持ちで過ごせるようにする。 		
対象の児童 生徒の実態	<p>Ⅲ-I グループ【幼児期】 肢体不自由（車いす） 緊張が強いため、活動場面では、車いすの座位姿勢だけでなく、立位や俯位などで腕を使って入力する活動も行っている。 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字や数字を読むことができる。</p>		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
<p>○自立活動の時間</p> <p>数種類のアプリを使いながら、iPadを操作する練習に取り組んでいる。手指の操作が意図したようにできなくて時間がかかることが多いが、教師の支援を受けながらカルタ取りをしたり、「Drop Tap」で気持ちを伝える言葉の音声を聴いたりして活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用した機器… iPad ・ 使用したアプリ… 「ひらがな」「こどもパズル」「Drop Tap」「ピタゴラン」等 			
<p>○自立活動の個別課題</p> <p>数の合成の学習に「あわせて10」のアプリを使用。数概念の形成を計るために、イラストを見ながら数を言ったり1から3の中から選んだりしている。</p>			
<p>○休憩時間</p> <p>音声付き絵本を見て、一人で過ごすことも取り入れ、将来の余暇活動の充実につなげられるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用した機器… iPad ・ 使用したアプリ… 「のじぎく」 			
活用のポイント・改善策等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体幹を安定させて上肢を動かせる姿勢作りを工夫している。 ・ 絵本を読むことが好きだが、ページをめくる時には周りの教師にお願いしなければならない。「のじぎく」を使用することで一人で本を読んで過ごすことができるようになった。 ・ 体の動きでなく視線で入力できるシステムの体験もしていきたい。 			